

2024 年度 学校法人 三幸学園 札幌医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 水尾 有菜

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笹田 直人

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」の下、医療・福祉分野の専門学校として「医療、福祉現場を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療・福祉分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

重点目標

1) 生徒指導について

□ 業界理解

- ・企業連携科目のみならず、業界の理解を深めるために企業講話を実施。
- ・インプットした内容をアウトプットする機会を実施。（研究発表会・シミュレーション大会）

□ 退学防止

- ・担任以外の教員も面談に入り、相談しやすい環境作りの強化。
- ・複数担任制度導入。
- ・スクールカウンセラー利用による、学習・精神面のフォローアップを強化。
- ・ハイフレックス授業実施を開始、通学が困難な生徒に対して単位習得の機会を与えた。

□ 企業連携

- ・学校にて就職説明会を実施する等、学校に足を運んでいただき、学生の様子を実際に見て頂く場を設けた。
- ・シミュレーションコンテスト等の行事には、各業界の人事担当や実習担当の方を審査員として招待し、現場の声を生徒に反映。

2) 教職員に対して

□ 業界理解

全教員参加の会議にて昨今の業界が求める人物像の変化など理解を深めるための勉強会を実施し、生徒指導に繋げた。

□ 授業、生徒指導力向上

- ・新入教職員研修を実施。（各学科の説明、理念の浸透）
- ・生徒が実施する授業満足度アンケート向上のための研修を実施。

- ・教職員同士の授業見学や姉妹校含む授業アンケート上位者の「授業づくりのポイント」を知る機会を設けた。
- ・外部講師を招いて、現代の子どもたちへの授業展開の手法を学ぶ研修を行った。

3) 卒業生との繋がりについて

- ・実習、就職ガイダンスや行事の来賓に卒業生に協力してもらう場面を増やし、卒業生が学校で知識を学びなおす機会を設け、開催し多くの卒業生と関わる場を設けた。
- ・各業界で活躍している卒業生をオープンキャンパスに呼び、各業界を目指している高校生と話す場面を創った。
- ・同窓会の活動として現場で働く卒業生と在校生で一般の皆様に応じた技術を提供するイベントを実施した。

② 学校関係者評価委員会コメント

【濱田委員/医療秘書科・診療情報管理士科】

・学校行事であるシミュレーションコンテストに参加したが、「解放感」や「高揚感」を得たことで学生自身が成長を実感できたのではないかと思います。学生の段階で自分が就職する先のイメージがわかる取組となっている。現場サイドも学生が懸命に取り組む姿勢に学ぶことがあり、毎年の楽しみになりつつあるのではないかと。

【奥野委員/医療秘書科・診療情報管理士科】

- ・現在取り組んでいる行事は、入学してから自分が志してきた業種の理想との乖離が減る機会になると感じた。
- ・(奥野委員の)学生時代は、実習に行くことに抵抗を感じており、実際に就職をしてから実習を経験して良かったと感じた。実習という形ではなく、気軽に現場を知る機会を設けることによって現場とのギャップを埋められるのではないかと。
- ・実際に現場での初期対応はシミュレーションコンテストで実施する内容のため、学生にとっても良い機会と感じている。

【薄井委員/医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科】

・現在職員26名中17～18名程が札幌医療秘書福祉専門学校の卒業生となっている。貴校の学生は持久力がピカイチだと感じている。様々な取り組みがその力を生んでいるのではないかと。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・教職員に対し、教育理念・人材育成像などは、全体場で何度も確認しているため、浸透しているように感じる。
生徒には年度初めの行事やホームルームで伝える工夫はしているが、日々の継続した発信・確認が必要である。

② 今後の改善方策

1)生徒に向けて

- ・年度初めだけではなく「どのような人材が社会で求められるか」自分事として理解させる機会を創る。
(未来デザインプログラム・業界理解/ホームルーム授業内で実施)
- ・新入生オリエンテーションの内容を定期的に振り返り目指す人物像について触れる機会を繰り返し実施する。

2)保護者に向けて

- ・オープンキャンパス保護者会時に「学校理念・目的・育成人材像」についてお伝えし、賛同いただく。
- ・2024年度は対面で保護者会を実施し、伝える内容も精査され次年度に向けての土台をつくることができた。

③ 特記事項

- ・昨年に引き続き、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーから、育成人材像が明確化され、そのゴールのための教育課程を編成することができた。
- ・入学する生徒の保護者の中に卒業生が増えてきており、世代を超えたつながりが強化されている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・チームズチャットやオンライン・クラスルーム等便利なツールが増え、いつでもどこでも簡単に業務ができるようになった分、やり取りする情報量が増え対応に時間を割かれるため情報交換内容の見直しも必要。

・ワークライフバランスの見直しが必要である。また、本来大切にしないといけない「人と人との繋がり」が希薄になってしまう恐れがある。

② 今後の改善方策

・新入教職員を始め、年に3回実施している全体会議の場で、学ぶ機会を設けていく。

・伝統校であるが故に、取捨選択に時間がかかる。全教職員が“変化を歓迎できる”よう日々の業務から意識改革が必要である。

・引き続き業務の効率化を意識し、残業時間が減らせるよう勧めていく。

・残業する基準を明確にして、教職員へ浸透させていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

Q.各委員の残業時間軽減の取組等を教えてください

【高田委員/医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科】

・本院も整備されつつあり、管理職は残業時間を減らすことも仕事のひとつとしているため、管理職が率先して早く出勤するよう促し、自身も早く帰ることを意識している。管理職は大変そう・忙しそうと思わせてしまうと目指す人が減ってしまう。

・毎月の残業時間を管理する中で、昨年と比較して「どうすれば効率化を図れるか」を考えて、場合によってはやり方を大きく変えている。夏季休暇・有給休暇も必ず取れるよう随時声掛けを行っている。

【薄井委員/医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科】

・労働編成委員会で毎月各セクションの残業時間を報告し合い、管理している。最近だと最大13時間まで減らすことができたが、減らす取り組みをすればするほど、副業希望者が増えている。

・学校現場はイレギュラーが多いことが想像できる。残業を減らすことも大事だが適正が何時間かを明確に提示し続けることが大事になってくるのではないかな。

【濱田委員/医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科】

・システムで管理しているため、誰が何月何日にどれだけ残業していたか・有休消化率はどれくらいかを常に意識している。また管理職はできるだけ早く帰れるように工夫し、現場のメンバーが帰りやすいようにしている。残業時間を減らす取り組みをすることによって、副業希望者が増えているのが現状。

・中間層はやり切る文化で育ってきているが、最近はプライベートを重視したい方が増えているため、二極化しているように感じる。お互いがお互いを考えられるような組織になる必要がある。

【浅田委員/診療情報管理士科】

・現場の先輩たちが早く帰るように促してくださっているため、負担なく業務を進めることができている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・保育、介護分野においては産学連携の機会も増えているが、医療系学科がまだまだ不十分と感じる。評価をいただけるタイミングが現場実習や行事と限られている。

・最先端の情報や今必要とされているニーズを生徒へ伝える機会がまだまだ不足している。

② 今後の改善方策

- ・現場実習に行く前の早い段階で“病院”で働くイメージをつけられるよう見学の機会を引き続き設けていきたい。
- また、授業内容について卒業生や現場の方の講話を取り入れ授業展開の工夫を図る。
- ・カリキュラム変更・シラバス公開に伴い、多くの業界の方に授業内容を見ていただける環境は整っているため、意見をいただける関係構築に注力をしていく。
- ・実習以外でも現場に足を運ばせていただき、関連業界との繋がりを強化するとともにいただいた情報を、全教職員へ共有し生徒指導に役立てていく。
- ・医療事務科の病院見学導入続行。医療秘書科の職業講話の実施。
- ・業界の経験者が授業を実施できる環境づくりの実現。
- ・美容医療コース開講に向けて、カリキュラムを美容クリニックと提携し、作成中。

③ 特記事項

年に 2 回生徒に授業アンケートを実施し、課題が残る教職員には教科チーフが面談し、授業力向上のアドバイスの場を設けている。また、新入教職員には前期途中に面談を実施し、授業に関する不安を取り除く工夫を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【笹田委員/介護福祉科】

現場は、高校生や専門学校の見学をかなり積極的に受け入れている。中学校も最近は増えているため、できるだけ職業をイメージして目指すきっかけにしてほしいと思っている。年間のカリキュラムに導入にしてみよう等工夫している。現場も将来的に職業に就いてもらえるように試行錯誤しながら進めているため、本実習以外の体験機会も喜んで引き受けるだろう。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率・検定取得率に関しては昨年度と比較して高くなっているため、引き続き教員の入れ替えがあっても安定した就職指導ができるよう基盤を作る必要がある。
- ・昨今、心身・精神不調の退学者が増えており、退学率の低減が最重要課題である。
- ・自宅での学習習慣の少ない生徒が多く、自発的な勉強方法指導と、資格取得へのモチベーションの維持が必要と感じる。
- ・検定取得率の向上を図っているが、年々難しくなっている。

② 今後の改善方策

- ・定期的に職員会議にて就職指導（就職先とのマッチング、面接練習方法）について勉強会を実施する。
- ・1つのクラスに対して、複数人で担任、学科業務を行うようにしていく。生徒から担任がいつでも相談を受けられる環境作りをしていく。また、スクールカウンセラーに週1度学校に来ていただき、相談できる環境の提供に努める。
- ・精神的に弱い生徒が増えているため、教職員が対応方法を研修し接していくとともに、実習先にも理解を求め共育する環境を作っていく。
- ・卒業生専用の公式LINE運用を行い、卒業後の把握や就職支援等を同窓会担当者よりアプローチをしていく。
- ・職業経験の無い担任に向けて勉強できる機会や資格取得の機会を設けて、授業と業界の理解をしていく。
- ・検定取得率の向上のため、検定サポート（補講含む）充実化を図り、取得率向上を引き続き目指す。
- ・放課後や朝の時間を利用して勉強サポートルームを開講。授業内では理解が難しかった生徒を対象としている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【濱田委員/医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科】

- ・これから先労働人口の確保が難しくなると考えると U ターン支援や企業側が学校に出向いて個別でアプローチさせてもらう等一緒に進めていく必要性を感じる。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・在校生に対しての支援体制は整備されているが、卒業生や中途退学者への支援は不十分である。
- ・就職をゴールと設定している状況が見受けられる。あくまでもスタートと捉え、長期就労の支援を整備していく。また卒業後の相談に関してもできるように、開かれた学校作りが必要である。

② 今後の改善方策

- ・卒業生との繋がりを強化していくために、同窓会委員を巻き込んだ活動を強化するとともに、ホームカミングイベントの実施など卒業生が卒業後も立ち寄れる仕組みづくりを行う。
- ・保護者との信頼関係を築き上げるために引き続き、年度初めに新入生保護者会を実施し、クラス運営方針等を伝え、改めて社会人育成の場としての指導にご理解いただき、保護者からも連絡をいただきやすい状況を作る。また、退学防止のために必要な生徒に関しては、早い段階で保護者へ連絡、場合によっては三者面談を実施する。
- ・学科を超えたボランティア参加の紹介をし、誰もがボランティア活動ができる機会を設け、積極的に支援していく。
- ・教室に入れない、集団に馴染むのが辛いといった生徒に対して、クラス以外の居場所を作り、休めるスペースを作る。
- ・2024年度から「キャリア探求活動」として、所属している学科の職業に対して目標喪失した生徒を違う業界への訪問やボランティア活動を通じて、改めて目標を作り、退学を防止する制度を配置している。

③ 特記事項

- ・アプリ上で全国の就職情報を取得できるように新しいシステムに変更している。全国の姉妹校求人も含めて、どこにいても確認できる環境を整えた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【濱田委員/診療情報管理士科】

- ・アプリ上で全国の求人が検索できるようになったことは就職活動がしやすくなったと思う反面、全国区でいくと

北海道はまだまだ最低賃金が低いエリアのため、見栄えしないのが現状。企業側も選ばれるように努力していかないとけない。

・卒業生も就職活動が一斉にできる仕組みがあったらより良い。幅が広がる。

【笹田委員/介護福祉科】

・介護業界も留学生が増えているが、3年経ったら東京へ行ってしまおうのが現状。職場にも慣れてコミュニケーションが取れるようになった時に出て行ってしまおうので、苦しい部分もある。

・北海道出身の学生に地元就職したいと思ってもらう工夫のみならず、道外の姉妹校の学生や卒業生を北海道で働きたいと思わせる工夫もしていきたい。

【薄井委員/医療秘書科】

・学生は道外を希望する割合はどれくらいか。⇒10%前後

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・防災に対して生徒の意識を向上させていく必要がある。

・校内の教室環境が整備されつつあるので、それを最大限に生かし、教育成果に繋げていく必要がある。

② 今後の改善方策

・5月中旬に避難訓練を実施。

・FREEWi-Fi、各教室のプロジェクター設置等環境が整ったため、実践的な授業展開ができるようシラバスやカリキュラムを見直していく。（電子教材等）

③ 学校関係者評価委員会コメント

【薄井委員/医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科】

・歴史ある学校のため、建物も新しくはないと思うが、エアコンやプロジェクターの完備もしっかりとできている印象。

(7)学生を受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施しているため課題はない。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

昨年同様、18歳人口が減少している中で専修学校は当校のみならず、生徒募集に苦戦しているのが現状。いかに選ばれる学校であり続けるかが重要となる。検定取得率・就職率向上はもちろんであるが、引き続き、人間教育にも更に力を入れ、教務においても安心して預けられる学校にならなければいけない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

【笹田委員/介護福祉科】

・介護を目指せる学校がついに 3 校になって今後どうなっていくのか不安に思っているため、引き続き募集活動を積極的に行っていただきたい。

・今後は、業界で働く職員のお子様への教育投資等できることを色々な方面で考えていこうと思っている。

【高田委員/医療秘書科・診療情報管理士科】

・医療秘書科の学生に診療情報管理士科の転科の案内をする等の工夫が出来そう。その際も診療情報管理士として働いている卒業生の先輩に協力してもらうのはどうか。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・ほとんどの学科では、ボランティア等で地域貢献していたが、医療系の生徒が参加しやすいボランティア募集が少ないため情報収集に努める。

② 今後の改善方策

・学科に捉われず、ボランティア活動を実施中。昨年に続き北海道マラソンスタッフや赤い羽根共同募金などに参加している。

・今後も、施設や医療機関から情報共有をして頂き、生徒へ情報を開示していく。

③ 特記事項

・介護福祉科は委託訓練生の受け入れを行っている。

・2025 年度は医療秘書科の委託訓練生も受け入れた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【笹田委員/介護福祉科】

・どこも募集に苦戦している中で、変わらず入学生を受け入れられることは非常に幸せなことだと受け止めた。

【濱田委員/診療情報管理士科】

・イメージが付きづらい、華やかな印象ではない業界をどうやって工夫していくか。募集はもちろん教育的な部分でも引き続き工夫をしていただきたい。